

谷口池西側エリアについて -ホタルの生息環境の保全と調査-

○谷口池西側エリアの基本的な方向性

- ・谷口池西側エリアは保全ゾーンであるため、ホタルが生息できる環境の回復・保全させるという基本的な方向性の下、適正な保全活動を行います。
- ・適正な保全活動を行っていくために、ホタルの生息環境の現況を調査する必要があります。

○泉佐野丘陵と天神川周辺の、ホタルを取り巻く環境の変化

(天神川を守る会へのヒアリングによる)

- ・ホタルの生息環境について、泉佐野丘陵の棚田部等の竹林化が進行する 25 年ほど前までは、田畑が広がり、ホタルが数多くみられていました。
- ・水田が多かったこと、竹が少なかったことなどから、ホタルの多くはゲンジボタルやヘイケボタルであったと考えられます。
- ・新滝ノ池が建設された後（1995 年竣工）は川が堰き止められるようになり、下流にホタルの幼虫が流れてくるものが少なくなったと考えられます。これは、泉佐野丘陵緑地周辺で見られる水生ホタル（主にゲンジボタルと考えられる）減少の一因であると推測されます。

○ホタルの生息環境調査の進め方

①ホタルの生息環境の把握

○生息環境の把握

- ・今後どのような活動を展開していくべきかを明らかにするため、3 種類のホタルの生息環境を把握します。

○ホタルの生息環境の問題・課題の把握

- ・3 種のホタルの生息環境に基づいて現地の状況を把握し、問題・課題を明らかにします。

②調査スケジュール

- ・平成 28 年度：専門家によるサポートの下、事例見学や現地の水辺散策などを行いながら、継続的にホタルの生息環境について学んでいきます。ホタルの鑑賞を兼ねた調査等、楽しみながら調査の試行をします。
- ・平成 29 年度：谷口池西側エリアで、パーククラブによるホタルの生息環境調査を行います。
- ・平成 30 年度：パーククラブが主体となって、小学校や地域団体を交えたホタル観察会などの体験調査プログラムを開催し、楽しみを共有しながらホタルの生息環境の現況を把握します。

	＜平成 28 年度＞	＜平成 29 年度＞	＜平成 30 年度以降＞
パーククラブ	事例見学・勉強会 (例) 大阪狭山市 他 調査の試行	ホタルの生息環境調査	
府・専門家	事例見学・調査のサポート	調査のサポート	
市民			調査プログラムへの参加

○平成28年度調査プログラム案

＜生息状況調査＞ -ホタル鑑賞会をかねて-

泉佐野丘陵緑地には、美しい川と樹林の周辺でホタルを楽しむことができますが、どんな種類のホタルが、どのあたりに生息しているのかまだはっきりとわかっていません。ホタルが飛ぶ姿を眺めながら、生息状況の調査を行いましょう。

■目的

- ・今後ホタルの調査を行うのに先立って、泉佐野丘陵緑地に生息しているホタルの種類、数、生息場所を把握することを目的とします。

■調査方法

- ・ホタルが飛ぶ姿を楽しみながら、ホタルの種類と生息地を調べます。
- ・ホタルの光り方や飛翔地等から、種類を判別します。

■時期

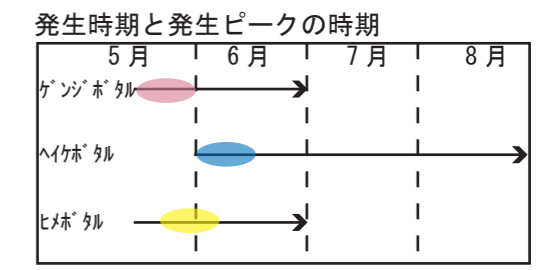
- ・それぞれのホタルの発生がピークとなる時期に行います。

■時間

- ・日没～2 時間後

■ホタルの見分け方

- ・ゲンジボタル 強く、ゆっくりした光 10～20mm
- ・ヘイケボタル 弱く、短い光 9～11mm
- ・ヒメボタル 瞬間的な光 7～11mm



＜ホタルの生息環境の基礎調査＞ -ホタルのすみかを訪ねて-

ゲンジボタルは、一生のほとんどを水の中で過ごします。天神川はゲンジボタルにとって住みやすい環境でしょうか？川に入ってゲンジボタルの生息環境を調べてみましょう！

■目的

- ・谷口池西側エリアで、どのような活動を展開していくかを考えるために、ゲンジボタルが生息すると考えられる天神川の調査を行い、ホタルの生息環境の把握と課題・問題の発見を目的とします。

■時期

- ・8 月 (ゲンジボタルの幼虫は、夏でも 25℃ 以下の冷たい水中で過ごします。)

■調査方法

- ・学識経験者のガイドを受けながら、ホタルの生息環境を調査します。

■調査事項

- ・環境断面の作成 (植生、断面の構成材、水深、川底)
- ・水温
- ・日照状況 他

＜ホタルのエサ調査＞ -ホタルは何を食べている？-

夏の川や森の中には様々な生きものが住んでいます。その中には、ホタルの幼虫に必要な巻貝も。童心に戻って、ひんやりした水辺や森の中にある、生き物調査をしませんか？

■目的

- ・ホタルのエサとなる巻貝の数を調べることを目的とします。

■調査方法

- ・1m 四方のコドラート (※) を使い、川底や陸地にいる巻貝を採集し、カウントします。

■主な調査対象

- ・カワニナ：ゲンジボタルのエサで川に生息する
- ・モノアラガイ：ヘイケボタルのエサで水田や池に生息する
- ・オカチョウジガイ：ヒメボタルのエサとなり朽木の裏など陸地に生息する

■時期

- ・6～7 月 (ホタルが幼虫となって、貝を食べてしまう前に行います。)

- ※コドラートとは、調査箇所を枠取りするもので、枠の範囲の中に見える生物を観察します。